



使い方が簡単なボルドー液。長期の残効・耐雨性に優れています。

# ICボルドーは全3タイプ

ICボルドー 66D		●登録番号 / 第18645号	●性状: 青色水和性粘稠懸濁液体	●有効成分: 塩基性硫酸銅28.1% (銅として3.7%)	●毒性: 普通物	●魚毒性: B類	
作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	銅を含む農薬の総使用回数
ぶどう	べと病	25~200倍	200~700L/10a	—	—	散布	—
	さび病	50倍					
	黒とう病	100倍					
おうとう	褐色せん孔病	40倍	200~700L/10a	—	—	散布	—
	灰星病						
うめ	かいよう病	50倍	10L/10a	—	—	—	—
	せん孔細菌病						
もも	かいよう病	2倍	10L/10a	—	—	—	—
	せん孔細菌病	25~200倍					
かんきつ	黒点病	80倍	200~700L/10a	—	—	—	—
	そうか病						
かんきつ	幹腐病	50倍	0.3~0.5L/樹	—	—	—	—
	ナメクジ類	2倍					
かんきつ	カタツムリ類	25~100倍	0.3~0.5L/樹	—	—	—	—
	かんしゅ病	50倍					
オリーブ	炭疽病	50倍	200~700L/10a	—	—	散布	—
	かんきつ	かいよう病					
マンゴー	かいよう病	40~50倍	200~700L/10a	—	—	—	—
	キウイフルーツ	25~50倍					
アボカド	炭疽病	50倍	200~700L/10a	—	—	—	—
	アフリカマイマイ	50倍					
くるみ	炭疽病	50倍	1~5L/樹	—	—	株元灌注	—
	黒斑細菌病	2~4倍					
あけび(果実)	斑点細菌病	40倍	200~700L/10a	—	—	—	—
	あけび(莖葉)	100倍					
野菜類	軟腐病	40倍	40~80倍	—	—	—	—
	腐敗病	40~80倍					
こんにゃく	葉枯病	50倍	100~300L/10a	—	—	—	—
	疫病	50倍					
アスパラガス	斑点病	100倍	100~300L/10a	—	—	—	—
	茎枯病	50倍					
トマト	疫病	50倍	100~300L/10a	—	—	散布	—
	ミニトマト	50倍					
にんにく	春腐病	100倍	50~100倍	—	—	—	—
	白斑葉枯病	50~100倍					
いちご	黒葉枯病	50倍	50~100倍	—	—	—	—
	にんじん	50~100倍					
薬用にんじん	斑点病	50倍	150~400L/10a	—	—	—	—
	つる枯病	50倍					
すいか	炭疽病	50~100倍	100~300L/10a	—	—	—	—
	白星病	50~100倍					
しょうが	炭疽病	50倍	100~300L/10a	—	—	—	—
	赤焼病	50倍					
茶	炭疽病	50倍	100~300L/10a	—	—	—	—
	葉枯病	50倍					
樹木類	炭疽病	50倍	100~300L/10a	—	—	—	—
	炭疽病	50倍					

## 66D 等量式ボルドー 48Q 倍量式ボルドー 412 3倍量式ボルドー

登録内容は2022年10月1日現在

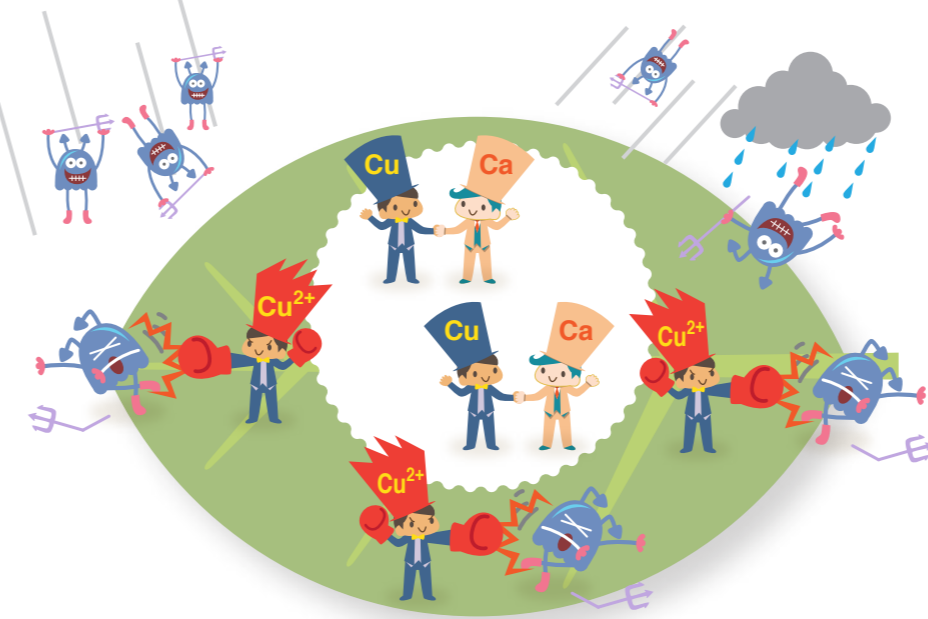
ICボルドー 48Q		●登録番号 / 第18646号	●性状: 青色水和性粘稠懸濁液体	●有効成分: 塩基性硫酸銅31.2% (銅として2.5%)	●毒性: 普通物	●魚毒性: B類	
作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	銅を含む農薬の総使用回数
ぶどう	べと病	25~50倍	200~700L/10a	—	—	—	—
	黒星病	30倍					
	葉枯病	25~50倍					

ICボルドー 412		●登録番号 / 第18644号	●性状: 青色水和性粘稠懸濁液体	●有効成分: 塩基性硫酸銅35.0% (銅として2.0%)	●毒性: 普通物	●魚毒性: A類	
作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	銅を含む農薬の総使用回数
りんご	斑点落葉病	20~50倍	200~700L/10a	—	—	散布	—
	輪紋病	20~40倍					
	褐斑病	30~50倍					
かんきつ	炭疽病	30~50倍	200~700L/10a	—	—	—	—
	黒星病	20倍					
	モニリア病	30~50倍					
もも	せん孔細菌病	30~50倍	200~700L/10a	—	—	—	—
	縮葉病	30倍					
なし	輪紋病	50倍	200~700L/10a	—	—	—	—
	黒斑細菌病	30倍					
かんきつ	かいよう病	50倍	200~700L/10a	—	—	—	—
	黒点病	30倍					
すもも	かいよう病	30~50倍	200~700L/10a	—	—	—	—
	せん孔細菌病	30倍					
ネクタリン	縮葉病	30倍	200~700L/10a	—	—	—	—
	かいよう病	30倍					
あんず	ごま色斑点病	20~50倍	100~300L/10a	—	—	—	—
	葉枯病	20~50倍					

ボルドー液は強アルカリ性の石灰と硫酸銅から造られた化合物です。ICボルドーは“唯一”ボルドー液と同じ石灰と銅の化合物の銅剤です。

### 銅の殺菌メカニズム

- ICボルドーを散布すると一旦乾いて白色被膜を形成。
- ICボルドーは雨・露、有機酸などにより銅イオン(Cu<sup>2+</sup>)を放出。
- 銅イオンが病原菌体に吸着・透過し原形質のSH化合物と結合し、酵素系を阻害。
- 病原菌の生理的機能を消失させ病原菌を死滅。



## 効果・薬害など、使用上の注意事項

### ICボルドー 66D

- 石灰硫黄合剤、有機リン剤、マシン油乳剤等を混用すると薬効を減じ、また薬害を起こす原因となるので混用しないこと。
- 散布直後に降雨があると薬害が発生しやすいので注意すること。
- 高温時の散布では、葉及び新梢にボルドー液特有の銅による薬害が発生する可能性があるため注意すること。
- 核果類(もも、うめ、あんず)には薬害を生じるおそれがあるので、生育期にはかからないように注意すること。
- ぶどうの無袋栽培で使用する場合、果房に汚れが生じるおそれがあるので果実肥大期以降の散布はさけること。
- おうとうに使用する場合は、北光には薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。また、果実に汚れを生じるので収穫間際の散布はさけること。
- かんきつに使用する場合は次の事項に注意すること。

- 新梢伸長期には石灰による葉焼けを生じる可能性があるため、新梢伸長期にはパラフィン系展着剤を加用すること。
- 梅雨明け以降の夏季高温時の散布は、薬害(スターメラノーズ)を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- 樹勢の弱い樹や異常低温が予想される場合は、落葉を助長するおそれがあるので使用しないこと。
- 幹腐病防除に高濃度(2倍)で使用する場合は、枝幹の病斑部に処理をすることし、葉や果実に薬液がかからないように注意すること。
- 無人航空機による散布では、新梢伸長期には石灰による葉焼けを生じる可能性があるため散布をさけること。

- トマトに使用する場合は、果実に汚れが生じるおそれがあるので注意すること。
- びわに使用する場合は、幼果期以降収穫までは薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- ゆりに使用する場合は、次の事項に注意すること。
- 1) 切り花用のゆりには汚れを生じるので、注意すること。
- 2) オリエンタル系のゆりには、薬害を生じる可能性があるため使用しないこと。
- (11) アスパラガスに使用する場合は、高濃度(50倍)散布では、茎に汚れを生じるおそれがあるので、収穫終了後の散布とすること。
- (12) もものせん孔細菌病防除に使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、開花後から8月末までは使用しないこと。
- (13) レタス及びはくさいに使用する場合は、生育期後半の散布及び連用によって薬害を生じる可能性があるため注意すること。
- (14) キャベツに使用する場合は、結球期以降の散布では汚れを生じる可能性があるため注意すること。
- (15) キウイフルーツに使用する場合は、発芽後の散布は薬害を生じるおそれがあるので、使用時期を厳守すること。
- (16) いちじくを使用する場合は、新根に薬害が発生するおそれがあるので定植1年目までの苗木には使用をさけること。
- (17) ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイには、食害防止を目的として使用する。
- (18) 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害や作物への汚れの有無を十分確認してから使用する。
- (19) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### ICボルドー 48Q

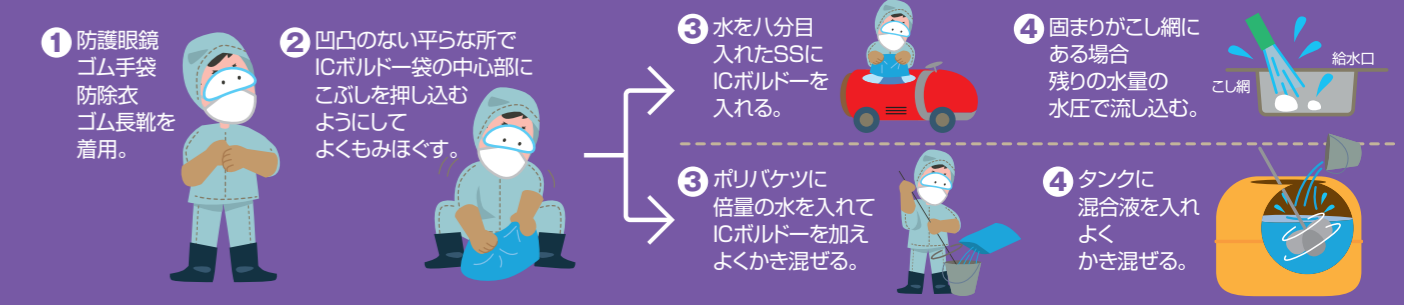
- 石灰硫黄合剤、有機リン剤、マシン油乳剤等を混用すると薬効を減じ、また薬害を起こす原因となるので混用しないこと。
- 散布直後に降雨があると薬害が発生しやすいので注意すること。
- 高温時の散布では、葉及び新梢にボルドー液特有の銅による薬害が発生する可能性があるため注意すること。
- 核果類(もも、うめ、あんず)には薬害を生じるおそれがあるので、かからないように注意すること。
- ぶどうの無袋栽培で使用する場合は、果房に汚れが生じるおそれがあるので果実肥大期以降の散布はさけること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### ICボルドー 412

- 石灰硫黄合剤、有機リン剤、マシン油乳剤等を混用すると薬効を減じ、また薬害を起こす原因となるので混用しないこと。
- 散布直後に降雨があると薬害が発生しやすいので注意すること。
- 降雨が多い年には、葉や果実に薬害を生じる可能性があるため注意すること。
- 高温時の散布では、葉及び新梢にボルドー液特有の銅による薬害が発生する可能性があるため注意すること。
- 核果類(もも、うめ、あんず)には薬害を生じるおそれがあるので、生育期にはかからないように注意すること。
- りんごに使用する場合は次の事項に注意すること。
- 1) 高濃度(20倍)散布では、果実に汚れを生じるおそれがあるので、無袋栽培では使用を避けること。
- 2) 果実にさび果を生じるおそれがあるので、開花直後から落花30日後までは使用を避けること。
- (7) もも、ネクタリン及びすももに使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (8) なしに使用する場合は、無袋栽培では果実に汚れを生じるおそれがあるので注意すること。
- (9) かんきつに使用する場合は次の事項に注意すること。
- 1) 新梢伸長期には石灰による葉焼けを生じるおそれがあるので、パラフィン系展着剤を加用すること。
- 2) 高温時の散布により銅剤特有の薬害(スターメラノーズ)を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- 3) 樹勢の弱い樹や異常低温が予想される場合は、落葉を助長するおそれがあるので注意すること。
- (10) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### ICボルドーの希釈方法

ICボルドーは、粘度のある懸濁液ですので、まず箱からフィルム袋を取り出し、繰り返しよくもみほぐしてください。



#### 【安全使用上の注意】

- 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
- 本剤は皮膚に対して強い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- 散布液調整時及び散布の際は保護眼鏡、不浸透性手袋、不浸透性防除衣、ゴム長靴などを着用すること。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう周囲いやて札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

#### 【水産動植物への注意】

- 水産動植物(魚類、甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- 使用残りの薬液が生じないよう調整を行い、使い切る。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 【貯蔵上の注意事項】

乾燥固結しないように密封して貯蔵すること。また凍結するとその物理的性質が劣化するので凍結には十分注意して保管すること。